

在宅医療における臨床検査技師の未来像

施設を中心とした在宅医療での活躍(平郁会での臨床検査技師の取り組み)

◎高橋 昌志¹⁾
医療法人社団 平郁会¹⁾

平郁会での検査課の取り組みについて

○平郁会の紹介

東京・神奈川・千葉を中心に 6000 名を超える患者様(施設・居宅含む)に対し、訪問診療を行っている。医療過疎地における支援事業として、昨年度は北海道札幌市、長野県長野市にクリニック開院、今年度は茨城県日立市にも開院予定となっている。

24 時間 365 日体制を整え、複数の業種からなるチームで患者様の診療にあたっている。

一人で全てを見続けるのではなく、複数の目で見守りながら患者様一人一人に適した医療の提供を心掛けている。

検査技師や放射線技師が単独で患者様のもとに出向き、主治医の診察時にはデータが手元にあるような病院での診察に近い状態にできるよう心掛けている。

○平郁会検査課の紹介

臨床検査技師 4 名、放射線技師 1 名、運転手 1 名の 6 名で検査に従事している。

主に施設での採血・心電図を行う採血班と、超音波検査と居宅での採血。心電図を行うエコー班、レントゲン撮影を行うレントゲン班にわかれ、主治医指示のもと、検査を行っている。

○これからの目標

コロナの影響で検査技師の存在がクローズアップされてきてはいるものの、未だに検査技師と放射線技師の区別が付かない人がいることも事実である。

居宅や施設での検査において、検査技師や放射線技師が関与出来ることを社会全体に発信していきたい。